

記入例：これから何が考えられるか。記入内容の適否、不足も含め、事例

年齢	0	10	20	25	30	40	50	60
西暦								
年表								
学歴								
職歴	看護学校 (1年休学して卒業)							
	看護師として就職 (何度か転職) 卒業と同時に一人暮らし							
	・本人入院中に実家へ引越							
治療歴	A病院 B病院 C心身医療研究所 Dクリニック E病院 (初めての入院)							
	E→当院へ (南時期に外来OT)							
	各病院診断はうつ状態・神経症, E病院は統合失調症, 適応障害, 大うつ病障害							

治療内容 薬物療法 作業療法
 朝夕食後薬 ・ドグマチール50mg 2T [抗精神病薬] 眠前薬 ・グッドミン0.25mg 1T 頓服 デパス1mg 1T
 ・アキテン1m2T [抗パーキン] ・ワイパックス0.5mg2T [抗不安薬]

心身の状態

精神機能
 ・抑うつ気分「生き活きと感じられない」「自信がない」「しんどい」
 →ひどくなると、ご飯も食べられない

・被害妄想：顕在化していないが、気配あり
 「前は周囲みんなが自分をおとしめようと敵におもえた」
 「特別に自分だけOTを長く利用しているのでは」
 「周囲においやられているように感じる」

身体機能
 ・睡眠障害「OTがない日は起きられないことが多い」
 「20時ぐらいからお昼ぐらいのときも」

[本人] 初診療カルテより
 「うつ病、神経症と診断されてきたが、自分ではこれまで躁うつ病と思っていた」

[主治医より] 病名ははっきりせず。症状はうつ状態。人格障害ではないと思う。
 ・OTのような保護的な場でないとつぶれてしまう方
 ・朝起きて日中OTで過ごすだけで充分
 ・何か動くには時期がはやい

生活活動

ADL：自立
 IADL：家でのお事は概ね母に頼る

対人パターン：
 ・「人の中で過ごすことが苦手」緊張あり
 ・集団の中で孤立 (→自主的に集団プログラムへの参加)
 ・フォーマルな場を作ることでスタッフに対し自身の気持ちや希望、不安などを言葉数多く話す

※親しい友人いない

作業遂行
 ・革細工、タイルサウ、塗り絵、陶芸などを行うが、失敗で終わった場合落ち込み強い

生活リズム
 外来OT一月/午前個人OT 午後スポーツ
 水/午前個人OT 午後陶芸
 菜の花一昼食 お茶会 スポーツ 講演会の情報収集
 診察：月2回 母と同伴している
 地域の単発講座への参加：パッチワーク「1日だけのもの」

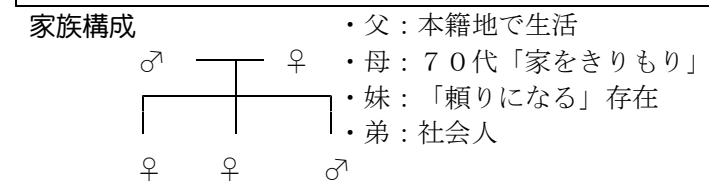
社会参加

(現在) 今の生活を現状維持していきたい
 健常者のなかの趣味的な活動を探したい

(経過のなかでの言葉)
 何か自分の能力をつかってできることをしたい
 看護職への復職は今の自分には無理。考えていない。

自宅で生活していくのもひとつの人生 (←スタッフから伝えた言葉を強く意識)：「結婚もせず子供もいない自分にそんなことがゆるされるのか」

70代の母の、今後の介護とかを考えるとおっくう



個人因子

看護師として長年勤務 (リーダーとしての役割負担になり通院歴あり)
 →「自分に一番合わない仕事だったと思う。責任があることはもうしたくない」

性格：メランコリー親和型 (律儀 まじめ 不全感)

長年の一人暮らし

「OTは居心地がいい」
 「みんな病気と立ち向かっている人だし」

環境因子

家族の希望
 →精神疾患でなく健常者の中で過ごして欲しい
 朝起きれないのは怠けている

生活支援センター「菜の花」利用:社会資源の説明・相談

[担当psw]
 ・これまでずっと仕事をしてきた方。プライドもあるだろう。作業所の雰囲気合わないのでは。障害者向きの資源でなく市民講座や趣味的なものも紹介している。

住居・経済事情

本人の預金
 両院との同居

評価概略
 ・高校卒業後より気分の波がありながらも、断続的な通院にて看護師として長年勤務。2年ほど前被害妄想がひどくなり3ヶ月の入院。その後自身で当院に転院され外来通院が開始。ほぼ同時に週1回外来OTを開始した方である。抑うつ気分の波・睡眠障害がありながらも約2年間安定して在宅生活を送っている。
 ・当初共通目標を立てず「過ごし場」として開始。本人より「次へのステップを」ということで利用日の拡大・ふり返り。地域生活支援センターとも連携し目標設定を行っているが、本人の抑うつ波もあり、支援の方向性が一定しない。

本人の希望
 ・このままでいい。1日1日を心安らかに過ごしたい。けれどこれでいいのだろうかという思いも一方である。

焦点化項目
 ・断念という形でなく主体的な人生を共に模索できないか。

リハビリテーションゴール
 ・就職であれ自宅生活であれ、自身が主体的に日々の生活を営み、また社会ともつながりをもてている。

長期目標
 ・地域の中で、本人が居場所や活動の場を模索している。

短期目標
 ・在宅生活を維持するため生活リズムの安定
 ・自発的な活動の場
 ・不安の軽減

援助計画
 ・継続：週に2回外来OTの利用 (個人OT スポーツ 陶芸)
 ・新規：2週に1回 担当OTと話しをする時間を設け、本人の話しを聴く時間をつくる。